



岡村病院
院内報

歩 (あゆみ)

第 40 号

発行 岡村病院
編集 歩(あゆみ)
編集委員会
平成14年11月15日

岡村病院 基本理念

私たちは、患者さん本位を第一に考え
高度な専門医療技術をもって
地域会社に貢献することを目指します。



「 秋風 」

高松和永先生 写

今月のことば

仕事を楽しむ

大嫌いな仕事をしなければならないのは一種の拷問だ。仕事がいやだと思うと、朝起きることがつらくなり、なんとか一日を乗り切るだけで精一杯になる。そうなると、仕事に喜びを見いだすどころか、仕事を忘れようとして、今後の休暇や週末何をして過ごそうか、といったことばかり考えてしまうことになる。なぜ、こんな夢も希望もない生活を続けるのか。では、何から始めたらいいか。第一に軌道修正するために必要なことは何であれ絶対に始めると決意することです。次に目標を選び、実行可能な計画を立てて段階的に実行することです。この二つだと思います。

あなたが仕事を愛すれば、周囲にいるみんなのためになる。あなたは自分の仕事を楽しんでいるから幸せな気分だし、いっしょにいても楽しい存在だ。また、あなたが提供するものを手に入れる人たちは、愛情のこもったサービスを得ることができます。



患者さまの権利章典

院長
岡村 高雄
(心臓血管外科科長)

日本の社会も成熟期を迎えつつあり、情報化も一段と進歩しつつあります。この為に医療においても患者様と医療側との関係は時代と共に変化をしつつあると認識をしていますし、現在の医療は患者さま主体の医療で有ることは皆様をご承知の事と存じます。例えばインフォームドコンセントの概念が定着しており、これは日本語に訳すと「十分な説明と納得」とされています。正しい説明を受け、理解した上での、自主的な選択・同意・拒否の意味です。かみ砕いて言えば正確な情報に基づいて、自己（患者）の責任で検査や手術や治療などの医療行為を選択する理念です。しかし、医療行為の内容によっては専門的で自己決定が困難な場合が有ります。専門的知識もない患者さまや家族にとっては治療法の決定は困難であり、不安

を覚える場合もあります。この場合は専門的知識を有する他の医師に相談する事が可能であると言うセカンドオピニオンの概念も広がりつつ有ります。

岡村病院の職員は可能な限り患者さまに十分な納得が得られた上で医療行為を行う事を目的としていますが、残念ながら場合によっては十分に納得をされていない場合も有ろうと思えますし、医療側としても本当に納得をされて医療を受けられているのだろうかとの疑問を有する場合も有ります。基本的には医療機関の努力が未だ残念ながら不十分で有ることに起因していると考えていますが、患者さまにも患者さまの権利をもう一度再認識を頂き今後より一層良好な信頼関係を築きたいと考えてこの度「患者さまの権利章典」を岡村病院として作成を致しました。職員一同この権利章典を遵守する所存ですので何卒宜しくご理解の程をお願い申し上げます。

● 岡村病院の患者さま権利 章典 ●

私達岡村病院職員は、当院の医療において、患者さまが真に人間として尊重され、よりよい信頼関係の深まりと共に安心して治療が行われてゆくようにするために、患者さまの権利に関する宣言をかかげます。これは1981年に採択された「患者の権利」に関する世界医師会の「リスボン宣言」を主に参考として当院用に作成したものであります。

患者さまの権利

1. 個人の尊厳を守る権利
一人の人間として、その人格、価値観が尊重され、医療提供者との相互関係の基で思いやりのある医療を受ける権利があります。
2. 情報を知る権利
治療や病状についての情報に関して納得ができるまで十分な説明を受ける権利があります。
3. 選択の自由の権利
医師を自由に選択又は変更する権利と他の医

師の意見を求める権利があります。

4. 自己決定の権利

十分な説明を受け、治療を受ける権利と治療を受けることを拒否する権利があります。

5. 個人の秘密を守る権利

治療で医師や従事者が知り得たすべてのプライバシーの機密保持を得る権利があります。

患者さまの責務

当院を利用される方に、以下のことをお守りくださるようお願いいたします。

1. 質の高い医療を受けるために、医療提供者に患者さまの健康に関する情報を可能な限り正確に提供する責務があります。
2. 患者さまにお守りいただく病院の規定・規則があります。それを可能な限り守る責務があります。

病院で検討の結果、この宣言を私たち職員の患者さまの権利を守る目標として掲示させていただくことに致しました。字義どおりの実践は困難かもしれませんが、どんな事でも遠慮なく職員に申し出て下さい。この宣言に反する行為や態度がある場合には相談窓口の事務長にお申し出頂きお知らせ下さい。

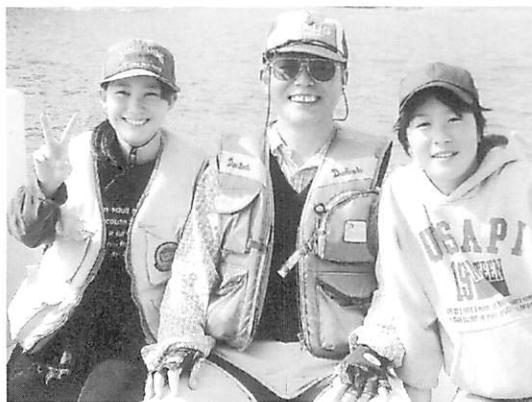
私の趣味

磯釣りを始めたのは28才のころだった。酒、マージャン、パチンコ、パクチのぬるま湯につかっている私を「三ちゃん釣りに行かんかえ。」と、友人Iが誘ってくれた。

「おー、連れてってくれ。」の一言。

夜風は吹く波は高い、船には酔う、磯に上がったら、「これはいかんぞ。丘とは違う」と気を引き締める。夜明けとともに竿をかまえてくれた。最初に釣れたメンドリ（ウミヒゴイ）。「三ちゃん、海へ来て鯉を釣ったらいかんぞよ。」と、言われた。磯変わりをして釣れだした。「何な、何がこんなに引っ張るがな。」必死で竿を握ってリールを巻いた。それから狂いだした。

毎週毎週磯へ、結婚しても磯へ、一人目子供が出来ても磯へ、二人目子供が出来ても磯へ、三人



目子供が出来ても磯へ、四人目子供が出来ても磯へ・・・四人目の時女房殿に言われた「アンタ何人子供が出来てもアンタの生活なんちゃあ変わっちゃあせんやんか!!」

そこでタバコをやめた。酒はやめれん。釣りも当然やめれん。

40半ばの頃喉が渴きようビールを飲んだ。友人Kと愛媛の磯へ行っちゃった時、あんまり喉が渴きKの水を飲んでしまった。「三ちゃん、そら病院で見てもろうた方がええ。」と言われた。病院へ行くと、「あんたは上等の糖尿病や。」と言われた。

友人Nが鮎の友掛けをやらんかと前から言われよった。「そんなこまいもんしでてどうするがな。」と言って断っていた。

磯は夏暑いのでちょっとことうてきた。そこで鮎の友掛けへいっぺん連れて行ってもらうた。これがまた面白い。何でち「魚が魚を連れてくる。どうなっちゅうがな。」ごっぼりはまった。

夏は鮎、それ以外は磯というパターンで何年かが過ぎた。でも、これから何年このパターンを続けられるか不安でもある。

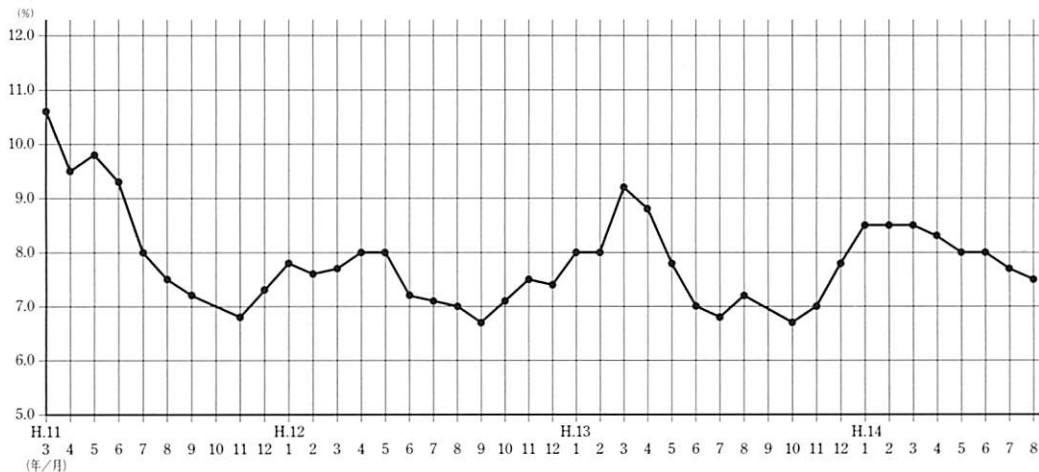
「鮎の友掛けは糖尿病にはえい。よう河原から川の中を歩き。」

高知かなえの会

自営業 愛宕町4丁目

三宮 詳三

●ヘモグロビンAicグラフ



インフルエンザについて

薬局長 岩本 洋子

毎年この時期になると、「インフルエンザ」という言葉をよく耳にされるとと思います。そこで今回は「インフルエンザ」について、簡単に説明をしたいと思います。

☆インフルエンザと風邪の違いとは

インフルエンザは、インフルエンザウイルスという特定の微生物の感染によって起こる病気です。一方「風邪」(かぜ症候群)とは、種々なウイルス感染によって起こる上気道炎の総称です。

☆インフルエンザの症状とは

インフルエンザは1～5日(平均2日)の潜伏期間の後、突然に発症し、38℃以上発熱、上気道炎症状、全身倦怠感の症状が出現する事が特徴的です。流行期(例年11月～3月)にこれらの症状があった場合はインフルエンザの可能性が高いと考えられます。症状の持続期間は通常2～3日ですが、場合によっては5日を超える事もあります。

☆インフルエンザの予防

- ・住まいの環境を整える
(湿度60～70% 室温20～22℃)
- ・睡眠をしっかり取る
- ・栄養バランスの良い食事をとる
- ・ストレス解消をする
- ・帰宅時にうがいや手洗いをする
- ・マスクの着用
- ・なるべく人混みを避ける
- ・インフルエンザワクチンの接種を受ける

☆インフルエンザワクチン接種のタイミング

流行前の10月下旬～12月中旬頃のワクチン接種が望まれます。高齢者や基礎疾患(心疾患・肺疾患・腎疾患など)がある方は重症化しやすいので、かかりつけ医とよく相談の上、接種を受ける事をおすすめします。

※インフルエンザワクチンの中には、鶏卵の成分がわずかながら含まれている為、強い卵アレルギーの方は、必ず主治医に申し出て、接種するかどうかご相談下さい。

☆基本的な接種回数

- ・13歳未満は2回
- ・13歳以上65歳未満は1～2回
- ・65歳以上は1回
となっております。

☆早く治す為の心掛け

- ・消化が良く、ビタミン・たんぱく質など栄養の有るものを食べましょう。
- ・高熱により脱水状態になり易いので、水分の補給を心掛けましょう。
- ・睡眠を十分にとり、安静にしましょう。

☆当院でもインフルエンザワクチンの接種を行っております。詳しい事は、当院職員に、お気軽にお声をお掛け下さい。

病院の給食

管理栄養士 橋田真美子

病院で提供している食事は

- ・疾病予防のための**特別食**
- ・それ以外の患者様を対象とした**一般食**
- ・検査食

の3つに区分されています。

さらに特別食は、

- ・エネルギーコントロール食
糖尿病 肥満 高脂血症 心臓病 痛風など
- ・脂質コントロール食
膵炎 胆のう炎 胆石
急性肝炎 高脂血症など

- ・たんぱく質コントロール食
腎臓病 肝臓病 糖尿病性腎症
膵炎 妊娠中毒症など
の大きく3つに分類されています。

また、疾病によって、これらの食事に塩分制限が加わります。

病院給食は治療食です。治療食でも美味しいと感じられるものを心がけていきたいと思っています。

足の運動のお勧め

理学療法士 野村 貞子

年を取ってくると歩いていても、足が充分に持ち上がらないで、つまづく事も多いようです。

日常生活の動作の中に、少しでも筋肉の力を落とさないような運動を取り入れてみてはいかがでしょうか。

歩く時に足を腰の高さ位まで持ち上げたり、踵を上げたままつま先立って歩いてみたり、つま先を上げて踵で歩きます。立ったままでゆっくりとこの方法を行なってもよいと思います。

動きを大きくゆっくりと行なう事は、関節が広

い範囲で動く事になりますし、筋肉も力を出す事になります。

又、普段あまり動かさない足部（足首から足先）の運動も行なってみてはいかがでしょうか。

靴下や靴で覆われている事が多いので動きが少なくなっているように思います。足首をぐるぐる回す、足の甲を足の裏の方へ引っ張る、指を開いたり閉じたり、曲げたり伸ばしたりして動かします。

足の裏を手の親指で押してみて、気持のよい場所があれば何回か続けて押し続けると足が柔らかくなると思います。

気がついた時に一日に一度でも良いですから行なってみてはいかがでしょうか。

『医療事務に就いて』

医事課 岡村 由佐

私が岡村病院でお世話になるようになって、早いもので一年が過ぎました。それまではずっと“一般事務”としてOLをしてきました。その“一般事務”と“医療事務”の大きな違いは、やはり“やりがい”だと思います。

病院には体のどこかに大なり小なり不安をかかえた方が来院されます。以前私が年の離れた妹と二人暮らしをしていた頃、大学受験を目前に彼女が高熱を出してある病院の救急に担ぎ込んだ時のことです。診察室に案内する看護師が、やっとの思いで歩いている彼女の足を早に歩き、振返って「もっと早く歩けないの？」と冷たく言いました。その後の診察で先生も「今、流行っている風邪でしょう。すぐに治せと言われても無理です。そん

な注射はありません。」と言い放たれました。私も彼女も言いようのない怒りと悲しみに包まれたのは言うまでもありません。

‘病は気から’という言葉があります。という事は、逆に言えば、‘気持ち次第で病氣も楽になる’と言う事だと思います。だからこそ受付にいる私たちは、少しでも安心して頂けるよう細心の注意・優しさが必要で、本当に責任のある仕事だと思います。

そして、私がある人に教えてもらった事。「あげる より もらいなさい！」してあげるのではなくさせてもらうという気持ち。医療の現場には、絶対不可欠だと思います。とは言え、完璧な対応は新米の私にはなかなか難しいものです。だからせめて笑顔を絶やささないよう心がけようと思います。

そうしてやっとなり頂ける患者さんの『ありがとう』の声を大切にして、また頑張ろうと思います。

沖縄旅行

3階病棟看護師 山崎 忍

10月5日から7日と院内旅行で沖縄へ行きました。1日フリーの日、5人でレンタカーを借りて観光と買物をする計画を立て行動しました。まず「ひめゆり平和祈念資料館」へ向かいました。入口で供養の花を買い防空壕跡の前で花を供えました。資料館に入って行くと沖縄戦の流れや、戦場に駆り立てられた女学生達の顔写真やどのような最期を迎えたかが記されていました。わずか16や17歳で負傷兵の看護や死体処理、医療器具、薬品、

食料や水の運搬などを命ぜられるまま献身的に協力していたのです。私が同じ年齢で死と隣合わせの状況の中でその様な行為はできないと思いました。館内を見て周り、鳥肌が立ってしまいました。戦争は2度とあってはならず、永遠に世界平和を訴えなければならぬと思いました。少し気分が落ち込みましたが、知る事は大事であるし、見学して良かったと思いました。その後も観光や買物をし、充実した1日を送ることができました。やはり、建物や人など異国を感じる雰囲気のある土地という印象を受けました。

～ 微笑の詩 ～

ほほえみ

3F 病棟看護師 澳本 由賀

9月から3Fの病棟に就職して2ヵ月目を向かえました。看護師経験はあるものの、この年になると再就職は大変で毎日四苦八苦の状態です。この就職の際、私は気持ちを新たにといい読んだ詩があるので紹介します。

ほほえみは お金を払う必要のない安いものだが
相手にとって 非常な価値を持つものだ

ほほえまれたものを 豊かにしながら
ほほえんだ人は 何も失わない

フラッシュのように 瞬間的に消えるが
記憶には 永久にとどまる



これは、私が高卒卒業後初めての研修で講師の方にいただいたものの一部です。講習内容も素晴らしかったのですが、最後にこれを戴きさらに感動した事を覚えています。人として基本的なこと、あたり前のことだけど、多忙な毎日では忘れがちになったり、色々な感情が左右したりすることもありますよね。以来私は何かある毎に振り返るようにしています。今後も初心を忘れる事なく、活躍出来るよう頑張りますので、よろしくお願ひします。

医療ガス院内講習会報告

平成14年10月10日に高松帝酸(株)専務取締役佐々木康二さんをお招きして本院2階職員食堂でスライドを用いて約1時間30分講習をしていただきました。講習内容は、医療ガス事故例及びヒヤリハットと医療ガスの正しい取り扱い方についてです。今までの日常業務を見直すいい講習会でしたし、毎日の日常点検の必要性を感じました。

今後も機会があれば勉強会を設けて行きたいと考えています。



編集後記

今回は、第40号が発行できました。これも皆様から多数ご投稿を頂いたお陰です。ありがとうございました。今後共よろしくご協力お願いいたします。

URL : <http://www.okamura-hp.or.jp>

E-mail : shimoyama@okamura-hp.or.jp